

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト ～いつでも どこでも 誰でもが学べる場～

授業づくり講座 in 香南市立佐古小学校



【教材研究会】令和3年9月3日
【授業研究会】令和3年11月18日

他教科のレポートも掲載中！
HPをご参照ください。
発行：令和3年12月 東部教育事務所



英語科

- 1 言語活動を通した単元づくり
～指導と評価の一体化～
- 2 授業力の向上
～教材分析と授業省察～
- 3 人のつながり、学びの高まりの構築
～他者との交流から学びの質を高める講座～



岡林 貴美恵 教諭



英語科の3つの視点で、第2回佐古小学校授業づくり講座における学びをまとめました。

教材研究会、授業研究会ともに、文部科学省 初等中等教育局視学官 直山綿子先生からご助言をいただきました。

1 言語活動を通した単元づくり ～指導と評価の一体化～

教材研究会

第6学年 Unit6 「This is my town.」(Here We Go!6) 授業者：岡林 貴美恵 教諭

領域別	聞くことイ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 話すこと【発表】ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
目標	書くことイ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。
単元	相手に自分のおすすめの場所についてよく知ってもらうために、自分たちが住む地域にあるものやそこでできることなどについて、聞いたり自分の気持ちや考えを含めながら聞き手に分かりやすく整理して発表したりすることができる。また、書かれた例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、自分たちが住む地域にあるものやそこでできることについて書くことができる。
目標	※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

～直山視学官の講話より～

①中間指導の在り方

内容面、言語面、文構成にフォーカスされるよう組み立てていき、内容の深まりが見える中間指導が大切である。「その内容でALTに伝わるの?」「香南市のことを知らない人に伝わるの?」等、児童に揺さぶりをかけていくとよい。

②学習評価の在り方

単元導入時に子供とルーブリックを共有し、授業中にルーブリックを児童と共に読み解きながら「整理するとは?」「詳しくとは?」などということなのか、指導で児童に問いかけてみる。A評価の児童を例にし「Aさんの発表はなぜ良いの?」「関連したことを加えているね。詳しく伝えるってこういうことだね。」等、具体を見せて、児童を鍛えながら、児童と共にルーブリックを作り上げていくとよい。

教材研究会を受けて ～変更点～



中川 真身 研究主任より



①見方・考え方の成長

第1時から言語活動と指導を繰り返す行うことで、児童の見方・考え方も内容面・言語面において成長することから第5・6時とチャレンジタイム(第6時の後)の見方・考え方を変更した。

②知識・技能の評価

第5時で記録を残すようにしていたが、第1～4時で形成的評価を行い、第5時でC評価の児童を指導し、第6時に評価することにした。

③ルーブリック

「整理する、分かりやすくとはいくことか」など、児童と共に考えながら進めていくことにした。

共有したことを一人一人がルーブリックに書き留められるよう工夫した。

2 授業力の向上 ～教材分析と授業省察～

授業研究会

協議の視点 児童の学びを深める指導が行われていたか～見方・考え方を働かせる言語活動を通して～

- 相手を換えながら何度もペアワークを行い、言語活動の時間が十分確保されていた。
- 「どうして質問を入れたの?」等、児童の思考を深めるために何度も問いかけていた。
- タブレットを使って構成を考え、1回目と2回目で付箋の色を変えていて変容が見取りやすかった。
- 言語活動と指導を繰り返す中で、内容を整理している児童がいた。
- もっと相手に伝えたいことはあるけれど、広がりが出なかった。→マッピングを使うと思考が広がる。
- もう少し、児童に考えさせる時間があったらよかったのではないかな。
- 「ALTに分かりやすく伝えるために」という目的意識が薄かった。→中間指導で相手を意識させるようにする。



～直山視学官の講話より～

「言語活動を通して」ということを大切にしている授業だった。児童の気付きに対して岡林教諭が「どこが良かった?」「なぜ、そうしたの?」等、学びを深める問いかけや肯定的なフィードバックをしていた。粘り強く取り組める児童の育成を組織的に行っていることが大切である。



①目的・場面・状況の共有

児童にまずペアでやらせてみて教師が中間指導し、またやらせての繰り返しがよくいった。繰り返す中で内容を整理しながら思考を深めていくので、もう少しペアワークと中間指導の時間配分を考えるとよい。中間指導の際に、4人のALTのメッセージから目的・場面・状況を確認してゴールを意識させると、分かりやすく伝える視点で思考を深められたのではないかな。

②モデルの提示

変容が見られない児童は、言語材料が少なかったため伝えたいことを表現できなかったのではないかな。語句や表現を引っ張り出させるためのモデルをもっと頻繁に見せて、言語材料を提示するとよかった。動物の名前を英語で言えることが大事なのではなく、その動物の特徴などを既得の知識・技能を駆使して伝えるなど、汎用性のある表現を引き出していくことが大切である。

③Small Talkの位置付け

Small Talkの活用をもう少し考えるとよい。Small TalkとActivityの違いを明確にする必要がある。Small Talkは決められた時間でどれだけ会話がキープできるかであり、質問する力が重要な鍵となる。Small Talkでは既習表現の使い慣れを意識し、中間指導を入れて語句や表現を引き出しておくことで、その後のActivityにつながる。

3 人のつながり、学びの高まりの構築 ～他者との交流から学びの質を高める講座～

■今日の講座から気付いたことや学んだこと

～参加者より～

- ・単元導入から最後まで「誰に」「何のために」伝えるのかをしっかりと意識させ、児童が使える表現を引き出し、言語活動を行うことが大切だと改めて思った。
- ・「整理する、再構築する、工夫する」とは?ということをもっと皆さんと学んでいきたい。外国語活動、外国語科(小学校・中学校)の系統も見据え、中学校・高等学校でも系統性を考えたい。

■今後、自らの実践に活かしていきたいこと

- ・中間交流では、単元終末に設定した言語活動に応じた内容面・言語面の指導を入れていくことができるように、言語活動の状況・場面などをしっかり考えていきたい。
- ・授業のねらいとしていることを児童と共有したい。(外国語以外の教科でも実践したい。)
- ・ルーブリックの活用の仕方を検討していきたい。

